

全校あすなろタイム交流会（生活科・生活単元・総合的な学習の時間）学習指導案

時間 第5～第6時限

（低・特別支援学級：第5時限）

場所・指導者 講堂（担任・コーディネーター）

1 題材名 せいのいのよさを発見しよう

2 単元について

(1) 児童の実態

ア 交流の状況と育てたい学習機会

学年と指導	学習活動の概要	具体的交流活動	交流の状況
低学年生活科 【本時では、自然に着目させたい（清嶺の温暖さや野菜の多様性）】	野菜の種をまいたり、育てたりする中で、その成長を感じるとともに、分からないことを「野菜名人」に聞き、世話をし収穫や調理したりすることで、達成感や育ちのふしぎを体感した。	○「野菜名人」への質問紙による交流 ○家の畑（野菜）観察 ○設楽町マスコットキャラクターとの手紙による交流	①地域（野菜名人・家族：野菜の観察等） →児童（疑問への回答） ②知識・体験 ③情報交換（解釈）
特別支援 生活単元 【本時では、人・道具に着目させたい】	大豆から豆腐を作っていく過程で、大豆の成長と料理への変化、地域社会とふれあうことへの関心を高めた。また、植物の世話をすることの大切さや料理などをふるまって、周囲から感謝される喜びを感じた。	○J A指導員など大豆栽培や豆腐づくり ○保護者や地域のお年寄りとの豆腐の試食などの交流	①地域（大豆・豆腐づくり指導者・家族・地域住民） ②知識・体験・比較 ③情報交換（解釈）努力評価（他者）→自己肯定感
中学年 総合的な学習 【本時では、自然（環境・生き物）に着目させたい】	水生生物調査から、学校前の寒狭川が「きれい」な川であることをとらえるとともに、身近な鮎釣りなどから、川の恵みについて感じる事ができた。また、川の石の変化から、上・下流のつながりに気づいた。	○水生生物調査による国交省・博物館学芸員との交流 ○とよがわ流域圏子ども会議による大村小・舟着小の児童との意見発表	①外部（国交省河川事務所・鳳来寺自然科学博物館）児童（大村・舟着小） ②知識・体験・比較 ③情報交換（解釈）他校の活動（感想）
高学年 総合的な学習 【本時では、人（農家の思い）と文化（食）に着目させたい】	「米づくり」をテーマに、田植えからの稲の成長の見取り、稲刈りなどの体験を行うとともに、農家からその苦労や工夫を知った。五平餅などの食文化や米づくりは、古くから受け継がれてきた地域の伝統であることに気づいた。	○「米づくり」で地元農家との交流 ○収穫した米を使った五平餅づくりと五平餅名人や農家との交流	①地域（稲作農家・五平餅名人） ②知識・体験・体験による共感・再評価 ③情報交換（解釈）・努力評価（他者） →自己肯定感

※交流状況 ①交流対象者 ②交流の質 ③交流により児童が得られると思われる意識・感想

各学年とも多様な交流活動を行っており、それぞれの学習効果が生れている。しかし、以下の点において、より充実した学習活動が可能であると考えた。

I 情報提供者（大人）から学習者への学び視点から、次につながる学習を考えていくこと

II 児童で聞き合い、感想をもつ段階から、「地域のもつよさ」を共感し、意識を高めること

イ 交流・コミュニケーション能力の充実

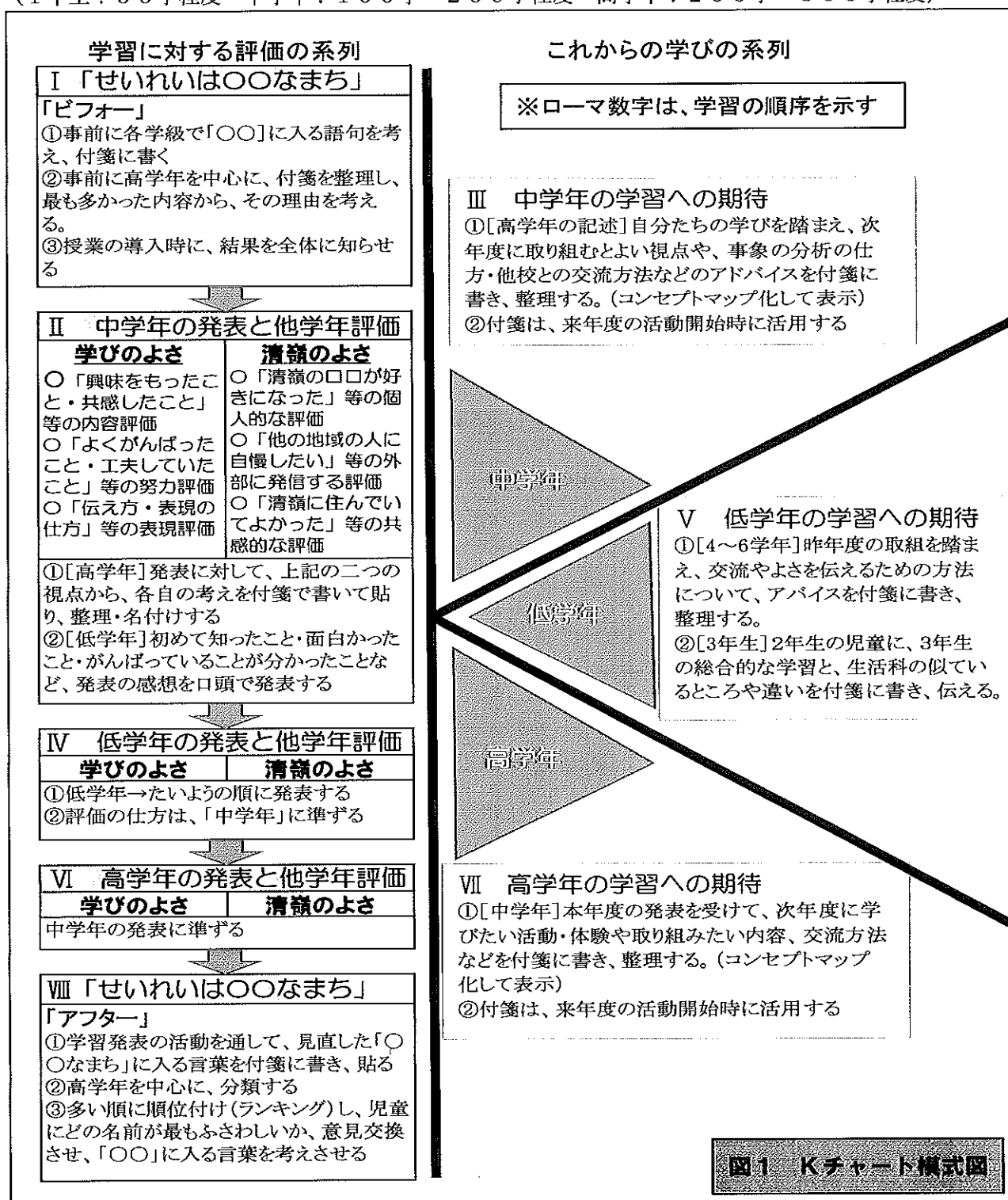
授業場面やコミュニケーションスキル・トレーニング（全校活動）では、素早く答えたり、相手の返答に対応して質問ができる子どもたちが見られる反面、自分の考えをなかなか言えなかったり、質問に窮したりする姿を見ることがある。これらの活動に苦手意識をもつ子に対して、通常の授業や生活にお

いて、継続した指導をすることが大切である。その一環として全校で交流する学習の中で、他学年の学習や参加の様子を体感し、意見交換をする場をもつことで、自他の考えを発信・受信できる力を高めたいと考えた。

(2) 学習の系統を生かした発表展開に当たって

発表に当たっては、以下のチャート図を用いて、考えを整理していく(図1参照)。まず、地域に対する最初のイメージをとらえるために、事前に児童の考え(「せいいいは〇〇なまち」)を集計しておく。そして、各学年の発表を、「学び」と「地域のよさ」から分析し、これから(来年度)の学びに生かしたい視点を出させ、意見交換を行う。この過程を経て、再度、児童の地域へのイメージをふくらませることで、地域のよさを感じさせたい。そして、「基礎・基本」の時間を用いて、本年度の学び(生活科・総合的な学習)を数百字程度で文章にまとめさせたい。

(1年生：50字程度 中学年：100字～200字程度 高学年：200字～300字程度)



3 交流会の指導

(1) 本時の指導

	生活科・生活単元の目標	総合的な学習の目標
共通目標	・自分たちの学習を伝え、その価値を感じるとともに、ようとする。	ふるさと「せいいい」のよさについて、改めて考える
個別目標	○他学年の発表を聞き、どのようなことに一生懸命に取り組んでいるかをとらえ、そのよさを伝えたりすることができる。 ○学区の自然や人々の営みには、地域がもつよさがあることに気付く。 ○自分たちの取組を相手に分かりやすく説明できる。	○他学年の学習に対して「学び」と「地域」のよさの視点からとらえる共に、次年度の学習に向けた意識をもつことができる。 ○付箋に書かれたよさやこれからの学習のあり方について、友達と相談しながら、整理・分類し、その理由を説明することができる。

(2) 準備 教師：Kチャート（意見の集約・掲示用）・マジック・プロジェクター・振り返り用紙・児童：発表用資料・筆記用具・Yチャート（個人の意見記録・整理用）・付箋（4色）

(3) 展開

時刻	学習活動	教師のはたらきかけ	児童の反応	高	中	低	★教師の支援（C：コーディネーター T：担任）
13:40	本時の目標と学習の流れを伝える			代表者発表			★C：本時の目標と学習の流れを、Kチャートをもとに伝える ★C：高学年の発表後、中学年の数名に感想を発表させる
13:45	最初の児童の「せいいいのイメージ」を伝える	事前に児童（高学年）にまとめさせておく ・発表は児童が行う（付箋は中学年以上） ・KJ法の手法で、整理したものを明示する					
13:55	中学年の発表をしよう			付箋	本発表	聞き取り	★T中：担任はプレゼンの準備を行う ★T高：高学年児童に発表を聞かせながら、Yチャート（付箋）に書き込ませる ★T低：低学年がスライドを見たり、話をよく聞いたりできるように支援する
14:10	中学年のよさや期待をYチャートに書きこもう（高学年）			記入	自己評価記入	発表準備	★T低：中学年の「よさ」を発表できるように、メモにまとめ、発表準備をする 【初めて知ったことや面白さ・興味・関心の視点】
14:20	Kチャートに付箋を貼り、よさ・期待の分類・名付けをしよう			付箋分類・発表	高学年観察	発表補助・発表	★T中：発表後、チャートに振り返り記入 【活動を終えてよかったこと・うれしかったこと】 ★C：高学年を事前に3グループに分け、「学び」「地域」「期待」で分類させる ★T中：自己評価で、書く視点が分からない児童の支援・終了者は、高学年の分類を見守らせる（高発表では中が分類） ★T高：「学び・地域」の分類を補助する ★C：「期待」の分類を補助する
14:30	低学年の発表をしよう			（中・高を2グループ） 付箋記入・発表準備		本発表	★T低：担任は発表の支援を行う ★T中高：児童に聞かせながら、チャート（付箋）に書き込ませる（できたものから、Kチャートに貼っていく）
14:35	⑩「やさいづくり」を中心にした発表 ⑪「とうふづくり」を中心にした発表・試食						自己評価記入
	低学年のよさや期待をYチャートに書きこもう（高学年）			発表	付箋分類		
	【学び】手だて・方法のよさを見取り評価 【地域】気候・道具（人）のよさを見取り評価 【期待】次年度の継続・総合へのアドバイス						
	Kチャートに付箋を貼り、よさ・期待の分類・名付けをしよう						
	【学び】手だて・方法から三つ以下に分類・名付 【地域】気候・道具・味など三つ以下に分類・名付 【期待】1年・特支：発展的活動2年：総合の基礎						

14:45	①低学年の分類の結果を発表する。 ②特支の分類の結果を発表する ③来年からの「総合」と「生活科」の違い	発表 まとめ 発表	発表 視聴	★C:事前に3～6年生を3視点からグループ分けしておく(「期待」は、低・特支・総合[3年は、生活と総合の違いに所属]の3視点)
前半発表終了・休憩				
14:50	高学年の発表をしよう	発表	休憩	★C:事前に3～6年生を3視点からグループ分けしておく(「期待」は、低・特支・総合[3年は、生活と総合の違いに所属]の3視点) トイレ等の利用・高学年発表準備
15:00	米づくりとそのまとめを発表 ・稲作体験の経緯(農家の工夫・苦勞・思い) ・五平餅などの米を使った伝統食・文化	発表	参加・見学	★T高:プレゼン等、適宜、補助を行う ★T低:低学年の後半部分の参加は自由とする ★T中:中学年児童は聞きながら、チャート(付箋)に書き込ませる
15:05	高学年のよさや期待をYチャートに書きこもう(中学年) 【学び】体験(栽培・料理)・観察などを見取り評価 【地域】地域の人・文化・伝統などを見取り評価 【期待】次年度、取り組みたいこと、グループ・関連化	自己評価	付箋記入・発表準備	★T高:発表後、チャートに振り返り記入【活動を終えて、「米」について見直したこと】 ★C:中学年を事前に3グループに分け、「学び」「地域」「期待」で分類させる ★T高:自己評価の書く視点が分からない児童の支援(書き終わった児童を、中学年の分類の補助に行かせる)
15:05	Kチャートに付箋を貼り、よさ・期待の分類・名付けをしよう 【学び】栽培・料理などから三つ以下に分類・名付 【地域】人や文化・伝統など三つ以下に分類・名付 【期待】次年度、取組希望を三つ以下に分類・関連化・分類の結果を発表する(中学年)	中学年支援	付箋分類・発表	★T中:「学び・地域」の分類を補助する ★C:「期待」の分類を補助する ★C:作業が済んだ高学年児童には、低～高の「学び」「地域」の共通するよさをマークさせる
15:15	改めて、清嶺のイメージを考えてみよう ・本日の学習を通して、見直した清嶺のよさを表す言葉を付箋に書き、ボードに貼る ・高学年を中心に付箋に表した言葉の序列化(ランキング)を行う	記入	付箋	★T中高:学習の流れやKチャートに示したキーワードから、ふさわしい言葉を付箋に書かせる ★TC:高学年に出てきた言葉を分類させ、ランキング後、自分が最もふさわしいと思う言葉を全員に挙手させる
15:25	今日の感想を発表しよう ・児童を代表して、6年生に感想を発表させる	ランキング	高学年観察	★振り返りは記入後、掲示し、全校児童が見られるようにする。